

金融経済教育研究授業を通して

群馬県立伊勢崎高等学校

教諭 柴崎 晴央

1. 研究授業全般について

金融に関する諸課題を、自分ごととして捉えさせることをねらいとして授業計画を作成した。

1 時間目は「コロナ禍は家計と産業をどう変えたか、今後はどう変わるか」の考察を通して家計のはたらきを、2 時間目は「実体経済を無視して株価が上昇するのはどうしてか」の考察を通して金融の仕組みを、3 時間目は「日本銀行が紙幣をむやみに印刷したらどうなるか」の考察を通して中央銀行の役割を理解することを各時間の目標とした。

全 3 時間のねらいを達成するために、どのような資料を提示すべきか、その方法や学習活動の形態はどうあるべきかを自分なりに考えた。

2. 使用教材について

〈1 時間目〉

- ・『マナブとメグミのお金のキホン BOOK』
- ・『はじめてのお金の時間（授業進行スライド）』

〈2 時間目〉

- ・『マナブとメグミのお金のキホン BOOK』
- ・『はじめての生活が豊かになるお金の運用』

〈3 時間目〉

- ・『マナブとメグミのお金のキホン BOOK』
- ・『知っておきたいお金の話』

「マナブとメグミのお金のキホン BOOK」は、「手取り収入 15 万円の家計簿例」など、身近に捉えやすい資料が多く、これらをクイズ形式で提示することで、生徒の授業への興味関心を高めることに役立った。また、全般にわたってイラストや図表、平易な表現の解説が多いので、教師が細かく説明をしなくても生徒同士で調べ学習を進めることができた。さらに、まんが入りの「はじめての生活が豊かになるお金の運用」や「知っておきたいお金の話」は、インフレやデフレの影響など口頭説明だけでは難解な内容を扱っており、これらを手がかりに理解を深めたり、話題を広げたりと活用することができた。

3. 授業前後での生徒の変化について

研究授業を実施した 1 年生のほとんどは、金融についての予備知識はほぼなしの状態であった。コロナ禍で起こっている社会的事象や身近な生活変化には非常に高い関心を持っているが、これらがどうして起こっているのかという問いに対しては、適切な表現で説明で

きる生徒はいなかった。

今回の研究授業を通して、特に各時間の考察テーマへの回答を見てみると、多くの生徒が適切な語句を用いて様々な事象を説明できている、あるいはしようとしていた。生徒の感想にも「自分が将来投資するときには」や、「今自分ができることは」などの文面が多く見られ、学習内容を自分ごととして捉えられている様子が見えた。

生徒の感想

- 新型コロナウイルスなどの社会問題が起こると、経済に関して良い影響を与えたり、悪い影響を与えたりすることが分かった。今自分ができる最適な行動をしていきたいと思った。
- 個人の消費行動は社会の状況に大きく影響されている、そのことで企業が儲けたり倒産したりと様々なことが自分たちに関係してくることが分かった。
- 経済の状況に応じて株価が上下する仕組みを理解することができた。自分が投資するときは今日の内容を生かして、自分のお金を計画的に賢く運用していきたいと思った。
- 間接金融と直接金融の違い、貯蓄と投資のメリット・デメリットを学ぶことができたので、社会に出たときに生かせるよう頭の中に入れておきたい。
- テレビや新聞でインフレやデフレなど言葉はよく耳にしていたが、それぞれのメリット・デメリットが授業でしっかり理解できた。状況に応じて政府などは国債の管理をしっかり行わなければ、国民との信頼問題にもなってしまうと思った。